

# 保育園との連携造形活動2018

・平成30年度学部講義・<前期>では、「ねんど造形活動交流」を平成30年7月10日(火)2限(10:35~12:05)「図画工作Ⅱ」の講義において、<後期>では、「バスや紙を使った造形活動交流」を平成31年1月29日(火)2限(10:35~12:05)「図画工作Ⅰ」の講義において、近隣保育園 園児を大学に招き実施した。(事前学習/当日/振り返り 各学期5講)  
 ・活動場所は、大阪教育大学柏原キャンパス工務棟G-102(立体室)で、年長園児27名と保育士3名が来学した。受講学生は1回生で、所属内訳・人数は次の通りである。  
 <前期38名> 学校教: 小中/学校: 18名、小中/音楽: 12名、小中/書道: 7名、その他: 1名、 <後期35名> 学校教育: 小中/学校: 14名、小中/音楽: 13名、小中/書道: 7名、その他: 1名  
 ・受講学生は、前後期とも8班に分かれそれぞれのテーマで園児との活動を想定して事前準備学習を行い、当日の活動及び振り返り学習に取り組んだ。

## <前期>

- 活動目標: 園児との対話や粘土を使った活動を通して、創造(想像)力、観察力、感性、コミュニケーション力を高め、学生自らが主体的に活動に取り組む姿勢を育む
- 活動内容: 素材(粘土)をつくる(再生)ことから始め、素材に触れながら、粘土活動の基本へ広がり、手や足を使って(積む・広げる・のばす・つなげる・ちぎる・ふむ・丸める・握る・などから)
- 活動のきっかけとなる準備物: ペニヤ板(大判180cm×90cm)・紙パック素材のロール紙(巾約100cm\*)・自然物(木切れ、草木の葉っぱ)・身近な素材(ボタン・毛糸・ビニール紐・ビーズ)、プラスチック容器など
- 素材から予想される活動展開(仕掛け作り、導入)⇒子どもたちの発想や想像力の可能性を発見する受講生が作った粘土の形⇒イメージを広げてもらう粘土の塊を平面(板の上に置く)⇒自由に絵を書く(バスのなどの併用)さまざまな形を積み上げてみる⇒大きな、高さ比べ・粘土をペニヤ板(アクリル板)に投げ付ける⇒当て、ゲーム・など

## 活動の様子(班ごとの活動テーマなど)

- 1班: 「図工で音楽を楽しもう」(粘土で音符を作り、五線譜の上に置いていく、キラキラ星の楽譜を作って歌う)
- 2班: 「ピクニックに行こう」(自分の好きなビザ作り、色水ジュースづくり)粘土で平たい円をつくりその上に好きなグザイを作ってのせていくなど
- 3班: 「街をつくろう&動物をつくろう」(イメージーションを活かして自由に粘土で遊ぶ)
- 4班: 「さかなつり&ボールリング」(粘土でさかなを作って用意しておいた釣り竿でさかなつり、ボールをつかってペットボトルでボールリング)
- 5班: 「山・川・動物をつくる」(紙パック素材のベースにバスで木や川を描き、動物をつくっていく)
- 6班: 「お寿司屋さん」(お寿司屋さんになって、粘土でいろいろな寿司をつくる)
- 7班: 「個性」(個性を大切に、ビニール袋をつかった粘土遊び、ビーズやスロー・小枝などを使って自由に作る、バスをつかって絵を描く)
- 8班: 「ねんどと自然(お花畑と音楽)」(バスであらかじめ花や線をえがいておく、子どもたちが何を感じたかのようなものを作るのか観察する)



## 4. 保育士への事後アンケートから

### ①子どもたちの様子(反応)について

- 粘土遊びは、子どもたちが大好きな活動なので取り組みやすかったようです。各コーナーで学生さんと一緒に集中して楽しんでいました。「まだやりたい」という声もあり、(活動時間が)1時間弱は少し短い感じでしたが、ある程度完成はできていたので満足できたと思います。
- お兄さんお姉さんたちに少し緊張していた子もいましたが、とても楽しんでいる様子でした。帰ってから話を聞くと、異性の学生さんだから恥ずかしかったように思います。園で使っている粘土とは違う感じが楽しかったようです。また、ビーズなどを食べたことも特に女の子は嬉しかったみたいです。
- 各グループ内容はちがいましたが、楽しんでいました。時間があつたという間だったので、「もっとやりたい」という声が多かったです。

### ②保育士さんの気づき(内容、学生の対応など)について

- 学生さんが積極的に子どもたちと関わってくれたので、子どもたちも粘土遊びにスムーズに入ることが出来たので良かったです。学生さんの表情も楽しそうで良い雰囲気でした。 学生さん自身も目的がはっきりしていたので取り組みやすかったと思います。
- 各ブースに分かれてそれぞれのテーマがあり、子どもたちも何を作るのか想像したり、子どもたちなりに考えながら楽しんでいっているように感じました。ビザ、魚つり、音符、などは、ビザの次はジュース、魚釣りの後にボールリング、音符が出来たら「キラキラ星」をうたうなど、粘土のふれあいだけじゃない楽しみ方があつたように感じました。子どもたちだけでなく、学生さんも緊張していたのか、もう少し積極的に話しかけてあげてもらえたらよかったのかなと思います。
- 各グループで内容が違い、それぞれ楽しんでいました。作ったものを、ビザだけ持ち帰り園長先生にお土産ということだったが、他の子どもも自分の作ったものを持ち帰りがつたようでした。もっと積極的に話しかけてくださったら、子どもと打ち解け、もっと子供の表現力もアップしたかもしれません(緊張していたのが気になった)。

## <後期>

- 活動目標: バス・絵具や紙を使った活動を通して、創造(想像)力、観察力、感性、コミュニケーション力を高め、学生自らが主体的に活動に取り組む姿勢を育む
- 活動内容: 素材(バス・えの紙・紙など)に触れながら、はさみ・のりなどの基本的な道具を使って主に平面的な造形の楽しさを体験する
- 活動のきっかけとなる準備物: 色画用紙・バス・絵の具・段ボール・スポンジ・筆・刷毛・紙パック素材のロール紙・自然物(木切れ、草木の葉っぱ)・ そのた身近な素材(毛糸)など
- 素材から予想される活動展開(導入)⇒子どもたちの発想や想像力の可能性を発見する受講生が準備する仕掛け、見本(ポップアップ、切り絵、ラミネートなど)⇒イメージを広げてもらう様々な素材(紙、段ボール、毛糸、自然物)⇒制作から仕上げ(ラミネートや段ボールの額縁等)⇒園児が作品を持ち帰り保護者とのコミュニケーションへつなげる



- ### 班(班名)ごとの活動テーマなど
- 1班(nobis) 「箱に模様をつけよう！」
  - 2班(がっこうきょうい) 「切り絵をラミネートしよう！」
  - 3班(ジャスコ) 「絵を飾ろう！」
  - 4班(ぞうさんぐみ) 「ちぎり絵をしよう！」
  - 5班(pacem! 平和) 「ちぎってはつてあそぼう！」
  - 6班(プリキュア) 「カレンダーをつくろう！」
  - 7班(ポビー) 「いろいろなものでえをかこう！」
  - 8班(まっさん) 「とびだすカードをつくろう！」



バスや色画用紙・印刷物、ラミネートなどを使って、園児との活動を想定した見本の作成

## <保育士への事後アンケートから>

- 保育園では経験したことがない内容(ポップアップカード作り)、使ったことのないラミネートやミニほきで絵具をぬる等の活動もあり、園児たちはとても楽しかったようです。また、担任とは違う大学生が、教えてくれるということが、新鮮なようでした。
- 前回(前期)と違い、作った物を持ち帰ることができたことも、嬉しそうでした。お迎えに来た保護者にもすぐ、楽しかった内容を伝えながら作品を見せていました。保護者も、嬉しそうに話子どもを見て、喜んでおられました。
- いろいろな準備や計画、お忙しい中、楽しい活動を考えて下さりありがとうございました。

## まとめと展望

今年度も継続して、前期・後期と各1回ずつではあるが、小学科専門科目「図画工作」の授業で「保育園との連携造形活動」が展開できた。それぞれ受講学生たちは、事前学習で粘土や絵具・バスなどの素材、またそれらにかかわる様々な造形材料道具を体験研究し、自身の造形体験を振り返りつつ、実際に子どもと触れ合っどう活動するかを想像していく。事前のワークシートで「子どもたちに粘土遊びを目いっぱいしたのしんでもらう！」と記述した学生は、「自分の好きにしたいよ」という言葉かけが、「子どもたちに無限の可能性と自由を与えることができると思った。」と振り返った。「自分たちにはない発想がすごかった!」いろいろな子がいて(対応が)難しかったけど、すごく楽しくて癒されました!など述べた学生もあり、実際に子どもと直接触れ合うことでの体験的な学びは大きいものがあると確認した。

また、実施連携保育園の保護者の感想からも、この活動を通して、親子の会話や、制作物や体験を通じた子どもへの気付きがあることも確認できる。「大きいお兄ちゃんと〇〇くっつく!」と子どもたちがお家の方に話していました。保護者のかたも「楽しかっただね」とおっしゃっていました。、「(ねんどで作った)ビザを持ち帰らせてもらったグループの子は「ビザ作って持ってかえってきたー!」とても喜び、保護者の方も「良かったね」と話していました。」など、具体的なコミュニケーションにつながることはたいへん興味深い。

「子どもの「楽しかった」という声に「良かったね!」という返事も、大学に行き機会なんてなかったので「良い経験だったね」という声もありました。」との感想にみられるように、地域とつながる大学の観点においてささやかながら貢献を実感できる。さらに、筆者が実施している地域連携プロジェクト(イェロー・ライン・プロジェクト)との連携についても少しずつ取り組んでいるが、このような交流活動実施は学生の授業参加へのモチベーションを高めることにもなり、今後も継続的に実施していきたい。次年度は、交流実施時期について、双方のカリキュラムとの連関からの新たな試みを計画予定している。